



2021年 5月25日

日本鉄道労働組合連合会

JR連合「第23回医療連絡会」・連合「医療・介護フェス2021」

医療・介護現場の現状について悲痛な声が相次ぐ

JR連合は5月22日、第23回医療連絡会をWEB開催した。当日は、JR大阪鉄道病院、名古屋セントラル病院、ポシブル医科学㈱の医療・介護従事者など10名が出席し、医療・介護現場の現状と課題について意見交換を実施した。

冒頭、連絡会を代表して弥栄将洋代表幹事（JR西労組中央本部医療部会長）が挨拶し、これまで新型コロナウイルス感染症対応に奔走してきた医療・介護従事者に対して謝辞を述べるとともに、「今はただ耐える時期であるが、必ずやJR連合の多くの仲間とこの難局を乗り越えよう」と訴えた。

続いて事務局から、前回の連絡会以降の経過として、JR九州病院の事業譲渡、JR産業の現下の状況と緊急政策課題の解決に向けた取り組み、連合「医療・福祉部門連絡会」の取り組みへの参画等について報告を行った後、出席者から、医療・介護現場の現状について報告を受けた。出席者からは、感染症への不安や慢性的な人手不足、私生活にも及ぶ行動制限など悲痛な声が相次ぎ、今後JR各単組での労使交渉や連合の政策要望事項への反映に繋げていくことを全体で確認した。

その後、次期連絡会の体制として、代表幹事に梅村昌人氏（JR西労組中央本部医療部会）、副代表幹事に山根唯氏（JR東海ユニオン病院総支部）を選出。今後は、定期的にWEB等を活用して医療・介護従事者間の意見交換を実施していくことを確認し終了した。

また、同日は「連合アクション 医療・介護フェス2021～安心と信頼の医療と介護 中央集会～」がWEB開催され、医療連絡会の出席者全員が参加した。集会では、医療・介護の現場で働く組合員など全国から約2,400人が参加し、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、医療・介護現場で働く者の労働環境や処遇のさらなる改善の必要性を全体で確認した。



【第3部 あつまれ！ユニオンスクエアがYouTubeでライブ配信】

神津里季生会長は挨拶で、「新型コロナの感染拡大が長期化する中、医療・介護従事者は感染拡大防止に細心の注意を払いながら業務を継続する一方で収入が低下するという、全く持って理不尽な現実がある」と指摘し、「私たちが熱意を持って声をあげ、医療・介護現場で働く者の労働環境の改善に取り組んでいくことが必要である」と述べた。